

ベトナム訪問報告

私は4月15日から19日まで袋井市が主催するベトナム国際親善訪問団の一員としてベトナムを訪問しました。今回のベトナム訪問は、国際交流協会や浅羽ベトナム会、袋井商工会議所、浅羽商工会と市が協力し公式訪問団を結成、郷土の偉人の顕彰や産業視察、現地行政機関との交流などを行いました。

ベトナム社会主義国の現状について

面積は33万平方kmで、ほぼ日本から九州を除いた面積で、人口は現在約8800万人、毎年1.1%も人口が増えており、2020年には1億人に到達すると予測されています。人口世界第3位の大国で平均年齢は27.8歳と大変若い国でもあります。1986年から「ドイモイ」改革開放政策を展開し、1990年代から経済力が向上、2000年から毎年6%台から8%台の安定的な成長を続けています。

ベトナムの歴史は侵略と支配との闘いの連続で1000年を超える中国支配、フランスの占領、アメリカとの独立をかけたベトナム戦争を経験しました。そのため、ベトナム人の国民性・気質は忍耐強く、勤勉で向上心に富み、手先が器用でものづくりに適しているといわれます。

袋井市とベトナムとの交流について

袋井市とベトナムとの交流は、1900年代はじめ、フランス統治時代、ベトナム独立運動の指導者ファン・ボイ・チャウが日本に滞在し、それを浅羽出身の浅羽佐喜太郎が物心両面で支援したことに由来します。浅羽地区梅山の常林寺にはハン・ボイ・チャウが建立した浅羽佐喜太郎氏の顕彰碑が残されています。

フエ市での偉人顕彰と市民との交流

今回のベトナム訪問の目的の一つが、ハン・ボイ・チャウと浅羽出身の浅羽佐喜太郎の縁でつながった袋井市とフエ市の交流を深めることで、17日にはハン・ボイ・チャウ像への献花とハン・ボイ・チャウ記念館の見学、音楽交流を行いました。



気温38℃と大変暑い日でしたがハン・ボイ・チャウ像に袋井市、市議会、商工会議所などで献花を行いました。



ハン・ボイ・チャウの墓にも訪問団で献花しました。



ハン・ボイ・チャウ記念館の前で開催された音楽交流会では訪問団側からオカリナの合奏を、フエ市からは音楽大学の指導者による民族音楽の演奏、中学生や高校生の日本語による合唱やパフォーマンス、外国語大学生による「よさこい踊り」が披露され、交流を深めました。

袋井市主催で日越交流親善会を開催

18日夜にはハノイのホテルで、前駐日大使などベトナム政府関係者やベトナム商工会議所、ベトナム日本商工会、ハノイ在住の日系企業などの関係者を招き、日越交流親善会を開催しました。会では袋井商工会議所がプレゼンテーションを行い、商工会が視察に取り組む目的を示すとともに、袋井市を紹介するブースも設けられました。



交流会ではグエン・フービン前大使などの挨拶のほか、ハノイ貿易大学、ハノイ工科大学学生による日本語スピーチなどが行われました。その日

日本語能力の高さに驚くとともに、日本語が韓国語について選択の人気の高いとの話など、目標を明確に持ち、勉強に励む学生の姿に、日本に欠けているものを再認識させられました。

ハノイ市でベトナムの経済・産業を視察

今回のベトナム訪問のもう一つの目的がベトナムの産業視察です。ハノイ市では、私は商工会議所のみなさんとJETRO・ハノイでベトナム経済の動向についてレクチャーを受けたほか、国際人材育成機構の訓練校の見学、日系企業の工場見学を行いました。

ジェットロ・ハノイを訪問

山岡所長から直接1時間ほどですがベトナム経済のレクチャーを受けました。現在ベトナムには日系企業が1030社も進出、5年で2倍に増えています。高速道路建設や火力発電所・原発など大型プロジェクトが目白押しです。

しかし、インフレの高進、賃上げ、電力供給の不安、労働者の確保が難しくなっているなどの直面している困難課題も示されました。



ベトナムの2輪車の登録台数は2400万台、国民の2.6人に1台バイクを所有しています。今後数年はさらに増えていく見込みです。その8割を日本のホンダ、ヤマハで占めています。ハノイでは1人1台を所有、荷物の運搬、通勤、子どもの送迎など生活全てで利用されており、朝早くから深夜まで道路はバイクで埋め尽くされていました。



ベトナム・アイム訓練校訪問・見学

公益法人国際人材育成機構（アイム・ジャパン）は開発途上国の人材育成事業などを行なっています。ここベトナムの訓練校からは950人を日本に技能実習生として派遣。現在日本に550名、帰国した研修が350名ほどです。その多くが日系企業に勤め班長クラスで活躍しています。研修生の募集はベトナム政府、州などを通じて行い、競争率はかなり高く、日本語の事前研修でトライアルされているとのことでした。授業風景も見学しましたが、僅か4ヶ月の日本語、数学、生活習慣、体育などの研修で日本に派遣となりますが、研修生の意欲は高く、その日本語能力はかなりのもので驚かされました。全寮制で1室に10人部屋と大変な環境ですが、研修中の生活費も出て、日本

の研修期間3年間の収入も現地と比べかなり多く、それが大きな動機になっているようです。



㈱三菱重工業ベトナム工場見学



1703人の従業員、その内日本人は7人です。人件費は日本の10分の1、最低賃金は月8000円、平均は2万円ほどです。航空機の部品を製造、ベトナム人の器用さと目のよさなど労働能力は高く評価されています。社員食堂は必須、日本では薄れてきた慰安旅行や体育大会など会社の一体感を培う行事も実施しています。ベトナムには学歴差があり、夜間大学に通う人も多いとのことでした。

㈱ショウワベトナム工場見学



2輪車などの部品を製造しています。5人の日本人社員のもとで約2000人のベトナム社員が働いています。ここでもその勤勉性が評価されておりました。1年ごとの雇用計画、3年を超えると終身雇用、職種により差があります男女同じ給与、残業時間年200時間以内など労働法はかなり厳しいもので労働基準局の突然の査察もあとのことでした。

感想、参考になった点

僅か3日の短期間、それもフエ市、ハノイ市しか見ていないわけですが、発展著しいベトナムを肌で感じる事ができました。なかでも子どもたちや学生、訓練校の成年たちなどの勉強熱心さ、目的を明確に持ち取り組んでいる姿に感銘しました。日本人が忘れてきたものを気づかされた訪問となりました。また交流を通じてベトナム人が日本への憧れ・親近感を持っていることを感じ、これからも友好関係を保ち大切に育てていきたいと感じました。